



OVERSEAS

Vietnam —ベトナム—

海外事情【寄稿】



ホーチミン市で感じた可能性



渋谷充生 SHIBUYA Mitsui
株式会社片平エンジニアリング
構造橋梁部

初めての海外業務

2011年4月中旬から5ヶ月半の間、ベトナムにおける南北高速道路建設計画(ベンルック〜ロンタイン間)の設計業務に従事するため、ホーチミン市に滞在した。初めての海外業務である。日本を出発する前は不安でいっぱいであった。

私の浅い知識では、ベトナムは暗い印象しかなかった。映画で描かれているベトナム戦争の印象が強く、ジャングルが生い茂っているイメージ。また、ニュースで見て聞く社会主義の国と言えば…。もちろん、治安や食べ物等の不安もあった。



図1 ベトナム周辺の地図
(『外務省ホームページ』より)

これが最後には、全く印象の違う国となって帰国することとなった。

ベトナムの概要

ベトナムはインドシナ半島の東端に位置し、北に中国、西にラオスおよびカンボジアと国境を接する東南アジアの一国である。国土は南北1,650kmにも及ぶ反面、東西の幅は最も狭い部分では50kmにも満たない細長い国である。面積は九州と沖縄を除く日本とほぼ同じである。

首都はハノイで、ベトナム北部に位置する。今回滞在したホーチミン市は、人口や経済においてベトナム最大の都市であり、ベトナム南部に位置する。人口は712万人(2009年12月)である。成田空港から飛行機で6時間、日本との時差は2時間である。

気候

首都ハノイのある北部は日本のように四季があるが、ホーチミン市は熱帯気候であり、一年中温暖である。季節は雨期(5〜11月)と乾期(12〜4月)に分かれ、今回滞在のほとんどが雨期であった。

雨期には、ほぼ毎日スコールが降る。日本で言う「ゲリラ豪雨」以上の雨が降ると考えてもらってよい。日本の梅雨のように、一日中雨が降り続く日もあった。雨は夕方から夜中に降ることが多く、その度に道路は冠水するが、翌日の朝になるとすっかり水が引いているのには驚いた。

オフィスの様子

ホーチミン市のオフィスでは、日本人とベトナム人スタッフを含めて50〜60人が働いていた。勤務時間は8:00〜17:00。基本的に残業はしないので、時間内に終わるように、日本で仕事をする以上に集中して作業する必要があった。

また、ベトナム人は昼寝をする習慣があるようで、それに合わせて昼休みが11:30〜13:00と長く設定されていた。昼食後、オフィスの床にゴザを敷いて寝るベトナム人スタッフもいた。

生活に慣れるまで

通貨はベトナムドン(VND)である。ホーチミン市での生活を始めて、最初に戸惑ったのは通貨の単



写真1 ホーチミン市内の交通状況



写真2 歴史的建築物と近代的なビルが混在



写真3 オフィス近くの大衆食堂



写真4 大衆食堂の昼食



写真5 バインセオ

位であった。昼食が2〜3万VND、これが日本円では80〜120円である。当初は、なかなか感覚がつかめず、頭の中で日本円に換算するのに時間がかかった。

もう一つ戸惑ったことは、バイクの多さである。バイク(主にスクーター)は、ベトナムでの重要な交通手段であり、その交通量は半端ではない。交差点を横断する際には、青信号でも気が抜けない。クラクションを鳴らしながら、バイクが歩行者に突っ込んでくる。それを避けながら、躊躇せず横断できるようになるには「慣れ」が必要であった。また、歩道を走って来るバイクもあり、歩くのに気が抜けなかった。

その他バイクで驚いたことが二つあった。一つ目は、日本人にとっては強い雨でも、ベトナム人は雨具を着て平気でバイクに乗ってい

ることである。雨が降り出すと車道の路肩にバイクを止め、みんな雨具を着出す光景が印象的であった。バイクの数が半端ではないため、車は渋滞してしまうのだが。

二つ目は、バイクで4人乗りをしている親子をよく見かけたことである。両親に小さい子供が2人。幼児でも慣れたもので、ベルト(おんぶ紐)がない状態で親にしがみついて乗っている。その姿は可愛くもあったが、やはり危険であると思った。

成長しているベトナム

ホーチミン市に赴任してすぐに、私の勝手なベトナムのイメージが大間違いであると反省した。ジャングル等あるはずもなく、とりわけ、ホーチミン市中心部の1区は、近代的なビルが建ち並んでいた。街の至るところで、ビルの建設が見ら

れ、街の周辺では、マンションの建設が進められていた。その様子を見るだけで、ベトナムが経済的に成長し、発展していると感じる。

滞在したホテルにも、仕事で来ている日本や韓国からの長期滞在者が多く見られたことから、ベトナムの将来を見込んで企業が進出していることが窺えた。

ホーチミン市の治安

日本を出発する前は、治安が心配であったが、ホーチミン市に滞在中、危険な目には一度も遭わなかった。私の周りの日本人スタッフも、危険な目にあった者はいなかった。バイクによるひったくり等、注意は必要であるが、治安は良いと思われる。

食生活

食生活は、生春巻き等の香草



写真6 巨大なシャコ



写真7 地元の人で賑わう大衆食堂



写真8 貝料理



写真9 フランス製の胃腸薬

が効いているものは個人的にNGであったが、それ以外はほとんど問題なく過ごせた。ベトナムも米が主食で、箸を使って食べるころは日本と同じである。ただし、ベトナム人は右手に箸、左手にスプーンといった二刀流で食べる。

昼食はオフィス近くの大衆食堂で食べる。スープとライスが基本で、そこにおかずを選んで付ける。おかずは肉と魚のそれぞれに数種類あり、色々選べるため、ほぼ毎日通った。

ベトナムと言えばフォーが有名であるが、私がお勧めの料理を紹介する。一つは「バインセオ」。日本のガイドブックにはベトナム風お好み焼きと紹介されている。米粉生地豚肉、エビ、もやし、マッシュルーム等を包んで焼き上げたもので、それをレタス等の葉にくるみ、タレに付けて食べる。香草がOKな人は香草で包む。味も良く、野菜がたっぷりとれる。

もう一つはシャコ。日本より3倍

以上大きい。見た目にはびっくりするが、唐揚げにして食べるとおいしいので、ベトナムに行った際には、ぜひ賞味して欲しい。

ホーチミン市に滞在してから1ヶ月半が経ち、食生活に慣れてきた頃、ベトナム人スタッフと一緒に食事に行った。ベトナム人は安全ピンを伸ばしたもので、貝をほじくって食べながら、会話するのが好きらしく、私もそれに誘われたのだった。

そこは地元の人達で賑わっている大衆食堂であったが、おそらく日本人の客は私が始めてではないだろうか。食事は数種類の貝が、様々に調理されて出てきた。どれも火を通してあるので、大丈夫であろうと食べたが、次の日から1週間、食あたりの症状が続いた。

日本から持ってきた薬も効かず、ゲツソリしていたところ、ベトナムで一般的な胃腸薬を勧められて飲んだ。「郷に入れば郷に従え」なのか、これがすぐに効いて、大

事に至らずに済んだ。薬はフランス製。フランス領であったことの名残りではないかもしれないが、私的には歴史を感じた。

食生活について、最後にもう一つ。水道水は飲めないが、飲食店で出される氷は問題なかった。

なお、ベトナムの食事が合わない人でも安心して欲しい。ホーチミン市には日本食レストランが多くあり、日本とほぼ変わらない味が楽しめる。

ベトナム語

5ヶ月半の間ベトナムに滞在中で、ベトナム語の簡単な単語やフレーズを覚えたが、発音が難しく、ほとんど通じない。ちょっとでも発音が違うと「こいつは何を言っているんだ」と言う感じになる。さすがに「シンチャオ(こんにちは)」や「カムオン(ありがとう)」等の挨拶程度は通じるが、例えば短いフレーズ「ティン ティエン(お会計)」でさえも、観光客慣れしている店でないと通じない。地名を伝えるのも難しい。

さらに、ベトナム国内においては、地域によって発音が全く異なるので、5ヶ月半の間にベトナム語でコミュニケーションをとることはほぼお手上げ状態であった。

乾杯

オフィスでは、ベトナム人スタッフと飲みに行く機会が何度かあった。飲み会では、大声を出して「モッ、ハイ、バー、ヨー(1、2、3、乾杯)」と乾杯するのがベトナム式である。しかも、一気飲みがほとんど。これを何度も繰り返すので、ベトナム人との飲み会は覚悟が必要である。ベトナムにはウォッカハノイというお酒がある。インターネットでは、「アルコール度数が30%



写真10 結婚披露宴のステージ

で、口当たりもよくて飲みやすい」という人もいるが、個人的には危険なお酒であった。調子に乗って、ショットグラスで乾杯の一気飲みをやっていると…、後で後悔する結果に。

ベトナムの結婚式

滞在中には、結婚披露宴に2度招待された。ベトナムの結婚披露宴は、とにかく派手であった。会場はライブ会場さながらで、正面にはステージがあり、真ん中には花道がある。バンドの演奏があり、ダンサーも登場し、場を盛り上げる。招待客も多く、1度目の披露宴は200人くらいいたのではないと思う。

日本と異なるのは時間にルーズ

で、開宴時間の1～2時間後にやっと披露宴が始まる。両家の紹介、ケーキカット、シャンパンツリー、乾杯等のセレモニーが終わると、後は普通の飲み会のようなのだ。ステージではバンドをバックに歌っている人もいるし、踊っている人もいる。一気飲み「乾杯」の掛け声が、会場のあちこちで聞こえるような状態だった。

閉宴もはっきりと分からない。料理を食べつくしたら、みんなバラバラと帰って行く。貴重な経験をさせてもらった。

市バスがお勧め

ホーチミン市で唯一の公共交通といえば、市バスである。ホーチミン市中心部の1区にある観光地として有名なベンタン市場前のバス停を中心として、市内に限なく走っている。私が滞在したホテルは、1区から離れた7区にあったため、1区に出る際にはバスを利用するときもあった。

私が市バスをお勧めするのは、バスが住宅街を通るため、市民の生活の様子を知ることができるからである。中心街とは少し違った風景を見ることができる。

ただし、狭い道路をすごい速さで走ることもあり、少し怖い。また、バスに乗るときは、並んで乗車するようなことはなく、目的のバスが来たら、先を競って乗り込むような感じである。さらに、バスはバス停に停止せず、ゆっくりと動いている場合があり、それに飛び乗らなければならない、注意が必要である。

初めての海外業務を終えて

帰国を前にして、ベトナムは、以前とは全く印象の違う国となった。ホーチミン市内は活気があり、気候は温暖で、全体的に明るい。人々も穏やかで明るいと感じた。

ベトナム経済は成長しているが、まだ、高速道路網や地下鉄等の鉄道網もない。水道水を飲むこともできない。

日本では、斜陽産業と言われることもある建設業であるが、国外には日本にできる支援がまだまだあり、建設業のこれからの可能性を感じることができた。

<参考文献>

- 1)「JETROホームページ」
(<http://www.jetro.go.jp/indexj.html>)
- 2)「ベトナムスケッチホームページ」
(<http://www.vietnam-sketch.com/>)



写真11 ベンタン市場前のバス停



写真12 バイクでいっぱいのスーパーの駐輪場